

9月9日の「救急の日」と「救急医療週間(7月13日)」にちなみ、日立製作所日立総合病院、ひたち医療センターの2病院は12日、救急隊員用の使い捨て手袋「ディスポザブルグローブ」を日立市に計9000組(1万8000枚)、寄贈した。

日立総合病院の奥村稔院長、ひたち医療センターの安本和正院長が日立市役所を訪れ、吉成明市長に手渡した。使い捨て手袋は薄い。

品。隊員の安全に役立たない疾患を防ぐためにも使い捨て手袋は必需

る。役立ててもらえば」と話し、安本院長は「新

管内の昨年1年間の救急出動件数は7830件。今年は9月12日現在で5721件に上

手のゴム手袋で、救急隊員などが患者と接触した際、血液や嘔吐物から感染するのを防ぐために使用される。

市消防本部による手袋は7組14枚を使用し、今回寄贈された1万8000枚は防ポンプ車の隊員分も含め、1回の出動で使い捨て手袋は7組14枚を補うという。

(小室雅一)

## 日立市に救急隊員手袋 2病院、9000組を寄贈

### ディスポグローブ贈呈式



救急隊員用の使い捨て手袋を日立市に寄贈した日立総合病院の奥村稔院長(右)とひたち医療センターの安本和正院長(左)=日立市役所